

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	法学博士「加藤正治(犀水)先生」顕徳事業
事業主体 (連絡先)	法学博士「加藤正治(犀水)先生」顕彰会 (生坂村教育委員会)
事業区分	③教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,647,861円 (うち支援金:1,748,000円)

事業内容

法学博士「加藤正治(犀水)先生」顕彰会の目的は、教育者としての先生の精神の継承のため、講演会を開催するとともに、村民が他の市町村の住民に誇る拠点として先生の句碑を整備する。
これにより、その場所を生坂村民の自信のよりどころとする。



【中央大学福原学長の講演】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 中央大学初代総長として現職のまま逝去された先生の偉大な業績を現在の学長が証明してくれた。また、親族の言葉から先生の人柄を偲ぶことができた。
- ② 生家は親族から外国人の所有に変わったが、家屋の貴重さと近隣である中学校と所有者の今後の交流に期待が持てる研修であった。
- ③ 句碑に刻んだ句は、加藤先生の信条ともいえる俳句で大学の卒業式の告辞にも引用されていて、村民が他に誇れるとともに人生の教訓とすることができる。
- ④ 村の直営施設やまなみ荘の利用者が、散策する場所は限られていた。しかし、加藤正治顕徳館と共に近くに村民が誇る場所ができた。

【目標・ねらい】

- ①加藤正治の精神の顕彰
- ②生家の研究
- ③村民の誇れる場所の整備
- ④村の施設とのコラボレーション

※自己評価【A】

【理由】中央大学の現職学長を招聘しての講演会により、加藤先生の業績の偉大さ及び生家の研究でも価値ある家屋であることが証明できた。また、村の教育現場の近くに教育と人生の教訓ともなる句を刻んだ碑を建立できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度に入り、5月の京ヶ倉・大城トレッキングのボランティア活動では、送迎のみであったが、登山ルート横に句碑の建立したことより、村をPRする施設が確保できた。また、中央大学の現職学長から今後の学長にも生坂を訪問するよう継承するとの言葉といただいた。今後の村と大学の交流のきっかけとすることが重要である。さらに、生家の現所有者からは家屋の活用について、芸術家のアトリエや外国人の活動の場所として整備したいとの夢から、隣にある中学校の生徒との交流に期待が待てる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある